

子供主体の教育・保育への一歩

市原市八幡認定こども園園長 さいとう 齋藤 じゅんこ 純子



1 はじめに

市立幼稚園、市立保育所の再編成計画により、こども園がスタートし5年が経った。本市では就学前の教育・保育を一体的に捉え、一貫してより質の高い教育・保育を提供するために、市立幼稚園は閉園。そして、市立保育所を段階的に認定こども園に移行し、市立幼稚園の機能を統合することになった。職員は、幼稚園教諭と保育士免許のどちらも取得し、保育教諭として、幼児期の教育・保育を総合的に実施している。

2 遊びと「環境」

4月、異年齢の関わりや、遊びの広がり・深まり、経験させたい遊びについて、「環境」に着目し園内研修がスタートした。自然に異年齢の交流を深め、自由に遊びを楽しめる戸外に焦点をあて、子供の姿を振り返り、記録し、経験させたいことや、子供の育ちや学びについて研究することになった。

保育教諭の計画によって、様々な遊びが展開されるが、各クラスや年齢の活動となってしまう異年齢の関わりにつながらない。遊びの体験からの学びはあるものの、育てたいものは他にもある。子供の姿から、学ぶことが多くある。保育教諭同士のつながりが、子供の遊びをつなげる。対話を生み、他児への理解につなげる。豊かな経験は、心の育ちとなる。そして次の遊び（学び）になる。

少しずつ、子供の遊びが変わり始めると、園庭から子供たちや保育教諭の楽しそうな姿やワクワクが伝わってくる。そんな時は、嬉しくなって、こちらまでワクワクする。



3 子供主体の教育・保育へ

(1)こども会議（5歳児）

初めての会議は遠足について、どこに行こうか、子供たちと話し合った。全員が納得するまで待つことにした。あれこれ時間はかかったが、自分たちで決めたことに満足そうで、子供たちが輝いて見えた。意欲的に様々な事に参加し、楽しめるように、子供たちが考えて決めることを大切にしたい。

(2)サークルタイムのすすめ

サークルタイムとは、子供たちが輪になって座り、対話や意見交換を行う活動のこと。

子供達は自分の考えや感じたことを自由に表現する。友達と共感したり、自分とは違う考え方や経験に触れたり大切な活動になっている。子供たちが友達の仕草や表情から気持ちを読み取る姿が見られたり、発言が多くなったり、子供たちの成長や学びにつながっている。

4 おわりに

「主体的・対話的で深い学び」をどう捉えるか。子どもの姿を振り返り、育ちや学びを見つめ、語り合える職場づくりに努めたい。